

**Aタイプ授業(知識・理解、技能、基礎基本)・Bタイプ授業(見方・考え方、活用)の使い分けによる指導の提案**

**1 ねらい**

全国学調の結果を受けて、管内の高成果校を訪問しその傾向を調査した。その結果、成果を上げた学校の傾向として、「教科書中心、速いテンポの例題説明型の授業」であることが分かった。このことから、授業を2つのタイプに分け、使い分けの指導を行うことを提案する。

【Aタイプ授業】 速いテンポの例題説明型の授業、単位時間内に定着問題を意識的に多く与える。分からない生徒は徹底して個別指導。

【Bタイプ授業】 自力解決・集団解決の時間を十分に確保し、分からない生徒も集団解決に位置付けながら全員で課題を解決する授業。

Aタイプ授業の事例として大船渡市立日頃市中学校、Bタイプ授業の事例として釜石市立唐丹中学校の実践を紹介する。

**2 具体的な実践** **Aタイプ授業** 【第3学年「2元1次方程式のグラフ」】

T：小テストをします。(2元1次方程式を  $y$  について解く問題)

問題1問

教師は机間指導をし、**生徒全員を見取った**。時間にしてわずか2分

T：今日は教科書73ページを学習します。

T：この式の名前分かりますか。

C：2元1次方程式です。

T：今日はこの式のグラフを描きます。

T：それでは、表をうめましょう。まず、 $x=0$ を式に代入して・・・。

T：みなさんやってみましょう。

T：それでは点を取ります。 $x$ が-5のときは・・・、〇〇さん。

T：みなさんも描きましょう。

教師は机間指導をし、**生徒全員がグラフを描けたことを確認**した。

T：みなさんできましたね。 グラフが完成した。

T：それでは、この式を  $y$  について解きましょう。

教師は**生徒全員ができるまで机間指導**を行った。

T：この式のグラフの傾きと切片は何ですか。

C：傾きは0で、切片は△です。

T：このグラフはさっきの2元1次方程式のグラフと同じですね。

T：2元1次方程式のグラフも  $y$  について解くと簡単に描けます。

T：それでは、問題をやってみましょう。できた人は前へ持ってきてください。

問題3問

生徒はできた順に教師に丸付けをしてもらった。**教師は全員ができたのを確認**した。

その後、教師は問題集の問題をやるよう指示をし、生徒はそれをこなした。

問題3問

----- ここまでの所要時間 25分 -----

T：グラフの描き方にはもう一つ方法があります。

T： $x=0$ を式に代入すると  $y=1$  になります。 $y=0$ を代入すると  $x=2$  になりますね。

T：これから点を取ると、さっきと同じグラフになります。この方法もあります。

T：それでは、問題をやってみましょう。

問題3問

教師は机間指導をし、**生徒全員を見取った**。

T：感想を書いてください。

**3 成果**

- ・速いテンポで生まれた時間を活用し問題数をこなすことで、定着が図られた。
- ・徹底した個別指導により、下位の生徒への定着も図られた。

<担当指導主事から>

【沿岸南部教育事務所 主任指導主事 伊東孝志】

- ・本時の授業をA・Bどちらのタイプで進めるのか、教師と生徒の間で確認が必要である。
- ・Aタイプではできるだけ説明は簡潔に。定着のための問題を多く与え、徹底して個を見取る。
- ・Bタイプでは教師は極力話さない。生徒の言葉を繰り返さない。教え込まないこと。
- ・Aタイプ、Bタイプの割合は4：1程度で良いと思われる。まずはAタイプから。

**沿岸南部教育事務所管内の高成果校の傾向**

- ①小規模校 ②生徒指導上の問題が見られない学校 ③教科書中心、速いテンポの例題説明型の授業 ④1時間の授業での定着問題の量が多い ⑤小テストや単元テストを実施し、分からない生徒には個別指導、全員が分かるまで徹底した指導 ⑥Gアップシートの効果的な活用 ⑦全国学調・県学調問題の活用 ⑧家庭学習はあまり量を多く与えずぎない。